

「日本3大美人の湯」紹介

時間がかかったけれども、日本3大美人湯を掌握した。それは、① 群馬県の川中温泉、② 和歌山県の龍神温泉、③ 島根県の湯ノ川温泉だそうだ。温泉の如何なる成分が効果があるのかは不明であるが、信ずる者は救われる。

チャレンジしては！

お盆は盂蘭盆祭とも言われ、陰暦7月15日を中心に行われる祖先供養の法会である。盂蘭盆の語源は、サンスクリットの *ullambana* 又は、*urvan* 説がある。

御殿場・小山地区のお盆は「ミクリヤ盆」と言われ、本来の陰暦7月でもなく、新暦7月又は月遅れの8月でもない時期に行われている。その由来等を色々と調べてみた。

『以前、当地の盆は、晩秋蚕（ばんしゅうさん）の出荷が終わった9月14日から16日に行われていたというが、明治43年3月10日の駿東北部連合町村長会議によって、いったん7月14日から16日に改められた。しかし、この時期は、養蚕と農作業の重なる多忙な時に当たるので、同年7月6日に再度の話し合いを行い、新たに、7月24日から26日と改訂された。この時期は、田畑の耕作も全て終わり、養蚕も夏秋蚕と晩秋蚕の間に合間に当たるので、農家にとっては都合の良い日取りである。以後、北駿一帯は、ミクリヤ盆と称して、この時期に盆行事を行う慣行が定着して今日に至っている。但し、北駿のうち、駿東郡小山町須走（富士登山土須走口にあたる）では、富士登山の最盛期を避けて最近まで、8月1日から3日に行っていた。』（御殿場市史 別巻Ⅰ 620p）

小山町史によると、8月初頭をも多忙で、夏の間 of 適当な時期を見計らって適宜実施していたようだとの記述がある。町内の方に確認したところ、現在は、8月13日から16日の月遅れのお盆になっている。その方のお祖母さんの記憶では、昔は今よりも10日遅れの8月下旬（23～26）にお盆行事を行っていたようである。

小生も幼き頃のお盆の思い出が懐かしい。お盆行事は全国何処でも似たようなものだろう。「盆道造り（墓へ行く道の草を刈ったり、道の修理をして、御先祖様が帰って来易いようにすること）」と「お墓掃除」をまずして、お盆の準備を行う。7月23日の夕方には、精霊さんの足元を明るくするとか迷わないようにするとの意味を持って「迎え火」を焚く。盆の24日には、早朝墓参りに行く。25日は、仏さんが買い物に行く日だと言う。現金と弁当を供える。まるで生きていたかの如くに仏様が扱われるのが原則のようだ。26日は、所謂精霊送りである。精霊様は朝早く送り出さないと混み合って帰りにくいとのことで、26日の早朝、他家に遅れないように、送り松明を焚いて、十字路とか川端に送る。弁当と称して饅頭を作って供える。（参考：御殿場市史、小山町史）

御厨盆について、ゴルフ練習場の奥さんに面白い話を聞いた。当地出身の者が『お盆に帰省したい』と休暇を申し出ると不審な顔をされたというのである。また、何年か前に、他の地域と同じ時期に再設定しようとのアンケートなど行ったこともあったとのことであるが、反対意見も根強く、結局御厨盆は継続しているということでもある。

目を閉じて思い浮かべてみよう。何と、風情があるではないか。現代の子供達は、このような、地域の年中行事を知らずして成長している。ある意味においては不幸である。古臭いと一蹴するのではなく、その中に古人の知恵を学び、地域や先祖を含めた家族の絆の再確認をすることが必要ではなかろうか。そういうものが余りにも軽視されているようだ。

かかる教官ありきの第二弾を近日中にUPすべく努力中(^_^)